

## 令和6年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 若松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査（国語、数学）

###### 教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 生徒質問調査

###### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

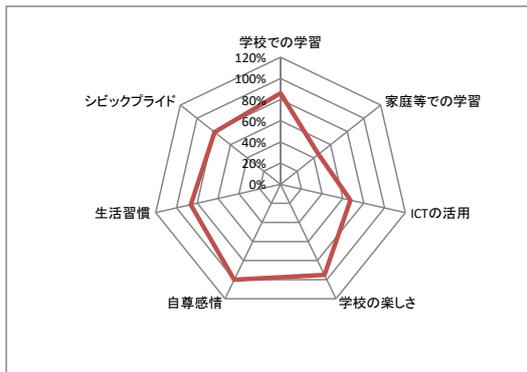
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	読解力に関する問題では、全国平均に近い結果であった。しかし、目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題では、全国平均を大きく下回っていた。特に、思考・判断・表現に関する記述式の問題に課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」・「関数」の領域における知識・技能に関する問題では、全国平均に近い結果であった。しかし、「図形」や「関数」の領域における思考・判断・表現に関する問題では、全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校の授業時間以外に、平日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低く、特に土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強をしている生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。主体的な学習につながるよう、</li> <li>○ 学校の授業時間以外に、普段、PC・タブレットなどのICT機器を活用できている生徒は多いので、授業でも活用していく場面を増やしていく必要がある。</li> <li>○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が、全国平均を下回っている。地域の祭りや行事などを調べたり紹介したりする活動を通して、自分たちが住んでいる地域に関心をもち、参加意欲を高めたい。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 学習内容が定着し、理解が深まるよう、また、授業中だけでなく、授業以外でも生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、各教科でタブレット端末を効果的に活用するとともに、学習プリントや授業と関連した家庭学習の課題など、更なる工夫・改善を図っていく。
- 学力向上に向けて、教育相談と並行しながら学習をする時間（若中学カタイム）を今後も継続して実施する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ICT機器を学校の授業時間以外に使っている生徒は多いので、5教科を中心にAIドリルを課題や宿題として活用することで、自主的な学びを支援し、授業以外における学習習慣の定着につなげていく。
- 家庭にも、保護者会や通信、teturu等で調査結果や状況をお知らせし、生活習慣の改善や家庭学習の支援をお願いする。